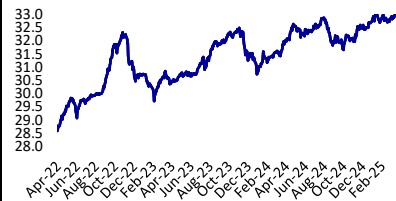
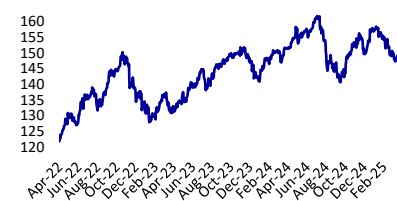


市場動向

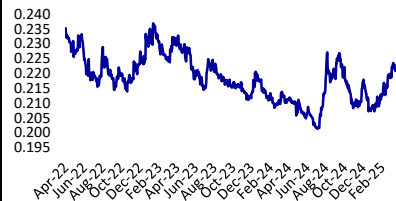
■USD/TWD



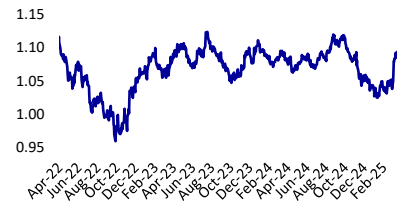
■USD/JPY



■JPY/TWD



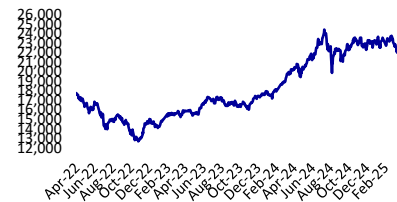
■EUR/USD



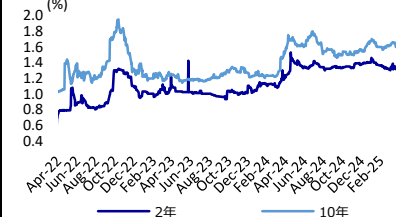
■USD/CNH



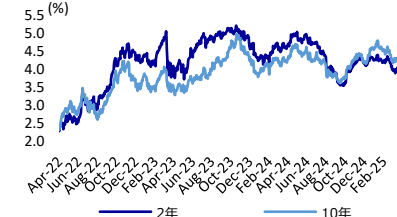
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初3/17は32.940でオープン後、外資による台湾株売りが止まらず、ドル買いが優勢となり、一時33価格を超えた場面も。その後、外資による資金流出フローが加速し、一時33.025まで上昇。3/18は、台湾株が上昇に転じたものの、外資や輸入企業のドル買いもあり、33元台で上下する展開に。3/19は、ハイテク関連株を中心に外資による台湾株売りが続く中、ドル買い優勢の展開も変わらず、一時33.056まで上昇。3/20、台湾株の反発で、連日売り越しとなった外資のフローが買い越しに転換したことで、台湾ドルも一時32.965まで上昇。3/21は、海外市場におけるドル高に加え、台湾株が再び軟調に推移したことを受け、ドル買い優勢の展開となったが、引けにかけては輸出企業によるドル売りに抑えられた格好。最終的には前週比0.10%高台湾ドル安の32.988で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は447.7億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初3/17は148.70でオープン後、地政学リスク緩和が意識されたことや、注目されていた米2月小売売上高の結果が市場予想を上回ったこと等を材料に値幅1円程度で上下する展開。3/18は、発表された米2月住宅着工件数が予想を上回ったものの、米国株の軟調な展開が重しとなり、149.30近辺までリスクオフの円買いが進んだ。3/19は、米FOMCで政策金利を2会合連続で据え置くことは予想通りとなったものの、保有資産縮小を通じた「量的引き締め」ペースの緩和と債券買いが進み、米長期金利の低下に伴い、ドル円も148円台後半まで反落。3/20は、FOMC後に米株をはじめ、リスク資産は反発したが、昨日は小幅反落と勢いは長続きしなかったため、ドル円は引続き上値重い展開。3/21は、日米金融政策イベントをこなし、材料難の中、148円台後半から149円台後半まで上昇。最終的には前週比0.45%ドル高円安の149.32で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.850-33.200

今週のドル/台湾ドルはレンジ推移を見込む。トランプ氏による関税政策や貿易戦争の動向に対する不透明感が強い中、様子見姿勢が強まりやすいだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：147.00-151.00

今週のドル/円は揉み合い推移を見込む。米相互関税政策の発動期限を翌週に控え、トランプ氏の読みづらい動向に一喜一憂する形となる公算が高いだろう。

今週の予定

3/24 (MON)	3月S&Pグローバル米PMI、3月HCOBユーロ圏PMI
3/25 (TUE)	米2月新築住宅販売戸数、米3月消費者信頼感指数、台湾2月鉱工業生産
3/26 (WED)	米2月耐久財受注
3/27 (THU)	米10-12月期GDP(確報値)
3/28 (FRI)	日銀金融政策決定会合における主な意見(3月)、米2月コアPCEデフレーター

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。